



箕輪進修高校 進路指導室

2011. 11. 17

No. 62



協調性を持つこと

ある組織に入ったとき人間は一人だけで仕事をする事は出来ません。常に周囲の人との意志疎通がきちんと出来るかが問われます。同時に**周囲の人とうまく人間関係がとれるかが重要**になります。会社を早期退職した先輩たちに聞くと、職場の人間関係がうまくいかず会社が嫌になったケースが少なくありません。世の中には色々な人がいます。気の合う人、合わない人。特に年齢差があると、上下関係という点でもその関わり方に気をつかわなくてははいけないこともあります。

しかし、会社に入ると気が合う合わないなどと言ってははいられません。職場の中では仕事という側面では色々な人と意思の疎通を図り、気持ちを一つにしていかななくてはなりません。

運動系クラブに入っていた人は先輩後輩の繋がりを通して人間関係を柔軟に対応できるように訓練されているために、社会に出てもうまく職場の中に溶け込めやすいと言われていています。しかし学生時代にそうした訓練が出来ていない人は、往々にして、**人間関係で神経をすり減らす**ことが少なくありません。

周囲の人といかに協調性を保てるかは、今後の皆さんの人生の中で大変重要なことです。人間は一人では生きていけません。従って人間関係は一生避けて通れないことです。そのとき周囲とうまく関わるためには**相手に求めるだけではなく、自らも協調性を持てるよう変わらなくてはならない**でしょう。**相手の気持ちや立場も理解するように心がけ**なくてははいけません。我慢すべき時は我慢しなくてははいけません。若いときは相手の注意等に素直に耳を傾けることも必要です。ちょっとしたことで人間関係にひびを入れ、トラブルを起こし、自らの神経や相手の神経をすり減らすことのないように、少しずつ訓練をしていって欲しいものです。



あるがままに見ることの大切さ

普段見慣れている風景がある日突然新鮮に感じたり、新たな発見をするということがあります。たとえば、いつも見慣れているはずの天井の木目模様にある日突然新たな発見をしたり、毎日通っている通学途中のよその家の庭先に咲く花の美しさにはっとするなどの経験は皆さんにもありませんか。

私たちは普段**ものを見ているようで案外見ていないことが少なくありません**。思い込みで生きてることの方が多いように思われます。それほど関心のないことは意外に見ているようできちんと見ていないものです。もとより日常生活の中ではそれでよいのですが、物事をきちんと見る必要があります。例えば理科の実験や、工業科の実習等であらかじめ先生がやって見せて、さあ今度は自分でやってみようといったとき、意外にその通りに出来ない人がいます。

世の中に出ると物事を見て覚えなくてはならないことが多くあります。物事をきちんと見つめないと、**本質を見て取ることが出来なくなってしまう**。時には「おまえの目は節穴か！」とお叱りを受けることになります。こうした場面での見るとは、**じっくり見つめ何が大切なのかを見て取ることが出来なければ見たことになりません**。会社には入れば特にそうです。